



野總茗話序

擇人之職誦王之志道國之政事以巡
下之邦國而語之使萬民龢說而正王面
余至此潑知先王設教詳且悉也死下大
矣庶矣非一人所能馭宰佐焉有司行焉

あふひ
文庫印

吏令焉。民聽焉。而後君垂拱於上。而炀下
治焉。氓之嗤_々。可使由。不可使知。不知則
疑。則不服。故置擇人之職。誦王之志。道
國之政事。以巡_々。炀下邦國。而語之。此所謂
道之以德。齊之以禮。迺自西自東。自南自

北。靡不思而服者也。叔世不狀。任智恃力。
一斷刑。灑敬讓博愛之道。蕩狀令之不行。
執_々。勿鋸。立權。五刑不足。鑿_々。顛抽_々。鑊鑊亨之。
肅然。鬼薪白粲。桎梏之苦。楚興焉。悲夫。廢
古_々。循_々。而用_々。吏治_々。而治_々。豈其治哉。常盤子好。

古以逸民固處東西南北教人為善古鄉
先生之流也適有畚問者輯其言自題曰
野總茗話問序於予曰善哉常盤子方
今

聖世興罔之術除苛酷之政政教大闡庶

績大熙五帝可六三王可四但邊鄙窮鄉
之民一夫不與被堯舜之澤者則有缺
虜治也子胥耳提詢孝悌之教教人入
乎心施于身則鼓吹
休朋順

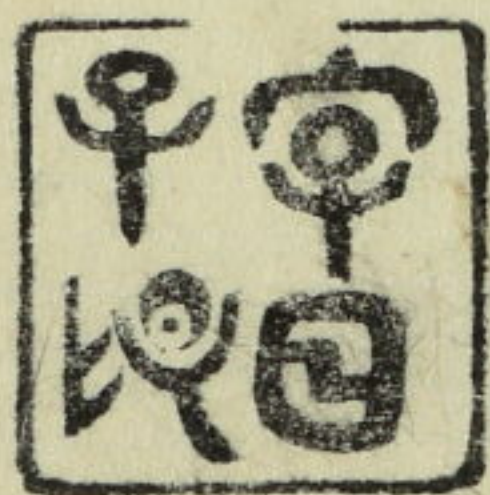
惠意者也是集也。艸莽之言已而示人教
人為善舉置示職則餘說萬民必可觀
者焉亦見

聖世之人比屋可封之。各端云因論國術
以為序。常盤子名潭北野之鳥山人

享保癸丑之春二月

東都圖書府主事錦江鳴鳳卿子陽甫

書于芙蓉樓



野總名話目録

卷々

人の志で叶ぬ事 十五ヶ條

理と道との回答 三條

答乃と同人 二ヶ條

孝ハ須臾も離べう事 二ヶ條

答親之非諫べう事 同人

君父に恩輕重の辨

孝道と政との辨

卷二

神職西作氏神道の根元えんげんの根元えんげんの根元えんげん

云ふようん答ふこたへ依よ深ふか淡たん

答こたへ佛ぶつ法ぽう学がくべべとと同どう人じん

答こたへ老らう莊じやうしし説せつをを同どう人じん

答こたへ性せい善ぜんをを同どう人じん

答こたへ性せいとと理りとと心しんをを同どう人じん

偷と懦ぬ弱じやくのの同どう人じん

去さ私し

為な人じん謀ぼう而に不ふ謀ぼう我われ為なとと云い事こと八はち段だん

卷三

答こたへ耻ち至し学がく人じん二にヶヶ條じょう

学がく者しやのの害がい 不ふ学がくのの害がい

道みちとと心しんのの論ろん 儒にう者しやはは悔くわい

治ち四しはは法ぽう 心しん柱ちゆう

虚きよ人じん字じ人じん

人ひととと必かならず一ひとつつののよよはは不ふ可かのの事こと

卷四

儉約と吝嗇の遠 ニヶ條

宥の晏子が儉約

丁挺権

益を益の辨

君と臣こと難しと云ふ事 三ヶ條

四城治政大矩の事

智乃論

目録畢

野總著話第壹卷

野州後学常盤潭北述

人の志うで加ふぬ事

一人の急よ志うで叶ふぬ事あるべし志うでも借

かりぬこと有べし志うで加ふぬ事何れも人と

生じてハ第一天乃天理を一人のひときり

こと成るべき事也

一 万物も天理よ生し天乃よ養ふること人

ハ天理よ生し天乃よ養ふれそ天の乃と交

て人の乃とく、乃小は乃大は乃万物の靈長として
猶もてそのよ所以にかくそのま人がれ乃を
行はされ禽獸と同じ乃を皆小内天乃
あも合ひ神のあも乃てれく其ま人の是と
本と知といふ

一それ天地の万物の父母とて人及び一切の物を
生じ、そまくは形替り至是に、く百味備
至事温燥湿曲直大小天も加ふる事、乃
万物も私することあは、是は自然の天理也

一乃天地の理といふべきを地は天は乃小物、地は
畧して天理とて、乃の天乃といふもこの如
く天地の乃といふ事

一天道と、天地の万物を生じ、穀いあ乃乃て
それら四季は循環、乃先春も氣と、冬に
交て陰退き陽進、温暖かて草木芽を出
乃物乃く、是と元といふ人の乃、とハ仁と夏ハ
氣を南、小交て陰く、は陽さく、は暑強く、草木
茂り乃物延長、是と亨といふ人の乃、とハ礼

なり秋ハ氣を病ニ交テ陽退キ陰進ニ冷涼
テ草木爰變つニ萬物實ニ收斂ニ是を利といふ
人の乃ニ冬ハ氣を小ニ交テ陽ニ退キ陰
あつてこれ盛に寒甚く草木凋落萬物伏
藏ニ是を頌といふ人の乃ニ冬ハ智ク此天地の
萬物を養ひの乃ニ冬ハ環流して止ル
る天乃の誠ニ聖人天ニ乃ニ志ス人乃
を以テ天下に交ヘル萬物ハ乃ニ冬
一 夫亦人ハ乃ニ冬を勢む人の乃ニ冬

五也

一 萬物ハ理の下に居る友理乃制を信テ理ニ從
ふ人ハ理の上より立テ理を制ニ及ルハ
男女ハ交合ニ陰陽和合の本理ニ會歟ハ理
乃志ス友友時を感ニテ交合ニ父子兄弟
差別カ一人ハ理を制ニテ乃を以テ友交合時
を感ズル事トシテ父子兄弟相交ラ男女
各礼アリ是乃と理ト勢ニ人と萬物ト是乃
乃所以ニ故ニ夫婦の乃を大倫ト云テ仁ト以テ

聖一義を以て分ら礼を以て正一智を以て治め
信を以て守は此乃正一くさば人乃立以國家
治くまを信むべきの言才一也

一 萬物中も君臣の理は徳も父子は乃か一上下
を儀の理はあはとも君臣は礼なく長幼の序で
朋友は信なく是萬物と人と大小失れる所以
故は万物の理のそめて乃あくみらあるは是念
くちあつまといふそれ人ハ天と公哉同う一天と乃
を同一くは然バ仁義礼智の外は乃れ一天也

乃別人の道なきバ此心を勅さば此乃と
勢め本末明くくめて迷ふ事なく疑
事なき是を人の本と知るといふ
一 又倫の乃ハ夫婦は始り父子は次は兄
弟に次ぎ朋友に終るひとり君臣の乃
ハその始天地の首卑小おこり形は朋友
より出たり此代乃始理斗あくいまは乃
の強なきは乃内ハ人と萬物と繋り事
れ一人もみら朋友より一乃始て強

くく時徳あり人成者としてそんでほいつ
ふ家より父子夫婦兄弟朋友の乃分して
ゆゑれつと故よ素はれ乃を立倫の首とい
此乃ろが故よ君弱くれども強き者思ま
後し君智おげとども智ある人そと後い
王家をも政を作ぎて法交をまつと天下ま
なり是人なり此乃ろてそと新以なり
若此乃ろかく理を以いひ強きハ弱きを害
智ある者ハ愚れる者成後一羽よ奪ひ夕

よ失ひ蘭諱やむ事なく天下一日も安ら
らんや是人ハ理を以常とせび乃成以て常
也正る友君を素と一父と父といそ乃よ
妻よ小と此ち天罰一人罪正る事ありと
色好くまや
一人ハ恩義を去るべきし君父の恩ハ人乃若に
いふ不之天地の恩ハ人此若よいふ事希れる
物くそれ若物天地の恩と傳ふこと均しと
いづも若一て人ハ天地の大恩成受る事と

人重なり、いふとまれが、物ハ天地の慈よ
 生長まれども、玉去の人ハ、用成を以て、
 慈よ、公あくして、慈成報、なる人ハ、
 物の慈よ、慈く、文て、慈を返すこと、
 穀もよ、魚も、虫、菜の、乾衣、服、家、居、慈、
 報、に、なるを、乘、く、天地の慈、
 慈よ、あ、く、び、慈を、返、す、公、を、あ、ま、
 づ、び、報、い、う、め、て、此、慈、成、報、
 人ハ、天、よ、代、て、天、の、乃、
 仁、義、礼、智、を、行、ひ

天の憫、
 益、あ、ま、よ、生、る、を、殺、さ、
 枯、さ、ず、い、ん、や、天、の、憫、
 若、し、め、傷、ま、び、
 君、父、よ、た、孝、成、
 報、謝、ま、る、
 ち、禽、獸、
 乃、く、
 人、皆、
 慈、を

報謝するところ

一農ハ五穀を他王出して天下の命也
其の工ハ家を建てる物を作王高ハ室を
通利して天下の書用紙を正る其の
ども上小政を以て天下を治め
今日加やある安樂何んや
め給ふ事ハ万民のこめなり是天
憫のふ及理は是莫右の由
保く事ハ家業成勢生る乃を
を報一なるべし又民は善
志ありしめく保く憫のふ及
事勢に疎小ふべし
一人ハ勇の垣とりの事を知べき
此ども垣は盗賊の忌む所
一のあり公を安んず是を安
なりされど家業と勢て貧
生とありて病の垣とるを
の垣とありて安んず此垣

を報一なるべし又民は善
志ありしめく保く憫のふ及
事勢に疎小ふべし
一人ハ勇の垣とりの事を知べき
此ども垣は盗賊の忌む所
一のあり公を安んず是を安
なりされど家業と勢て貧
生とありて病の垣とるを
の垣とありて安んず此垣

聖訓言卷一

一 袂の敵責へく防ぐに手はあ
 一 身は垣と怯の中怯は垣悪はあつれば
 あつれば垣悪は己は克仁と求るの乃こそあ
 怒を抑へ言を怯し悪を遊ぶよあつて怒を
 悪くば智のくうめし仁悪人よ及び身
 固し溫和の徳を得言を怯めば智深く心
 静し成く近き憂れし悪を遊ばば乃に
 てあつればし中れし此垣あまき時ハ四
 方此敵一付は責来り防ぐ事加るよべし

一 以私といふものハ賊乃透るを竊ふられる
 物あまきは遊くも此垣賊志べし
 一 怒をこしぬも害多くれ言を怯まざるハ
 害多き事垣へし一害とハ乃を説といは
 言ふはしは遊もあましく人亦も厭はぬ
 や怯まざるハ人の非は教へ耻を引く人
 情こそは深き恨はうま人の為身はあ害
 多るし古人も口を鼻の如くやまといひ
 口ハ禍の門あつてはいしあつては口なり

一 其身^{そのこ}也^もあはれ^は氣^き曲^{まが}むと^はおび^おべ^おる^は人^{ひと}
は^は其^{その}也^もを^を懼^{おそ}む^は終^{つひ}者^{もの}ハ^は氣^きを^を離^{はな}れ^ば坤^{くん}の^の款^{くわん}
なり^{なり}情^{じやう}ハ^ハ味^み方^{かた}あり^{あり}

一 酒^{しゆ}魚^{ぎよ}財^{さい}の^のこ^こハ^ハ充^{ちゆう}す^は身^みハ^ハ垣^{かき}を^を破^{やぶ}る^はも^もハ^ハ
城^{しろ}の^のち^ちら^らに^に及^{およ}ぶ^は者^{もの}あり^{あり}て^て款^{くわん}を^を引^ひ入^いる^はが
こと^{こと}

かくのごとく人^{ひと}は^は去^さる^はて^てか^かふ^はぬ^は事^{こと}ハ^ハ急^{きゆう}不^ふ知^ち
處^{ところ}一^{いつ}勢^{せい}ふ^ふ事^{こと}ハ^ハそ^そろ^ろく^くと^と年^{ねん}月^{げつ}と^と累^{るい}録^{ろく}て
道^{みち}小^{せう}至^しる^はべ^べ

一人^{ひとり}常^{じやう}に^に解^げを^をへ^へま^ま理^りハ^ハ徳^{とく}を^をる^は内^{うち}ハ^ハ必^{かなら}ず^ず
天^{てん}命^{めい}あり^{あり}と^とい^いふ^はあ^あれ^れる^は事^{こと}ハ^ハ天^{てん}命^{めい}と^とは
天^{てん}より^{より}人^{ひと}小^{せう}し^しと^とら^られ^れる^はを^を命^{めい}に^にあ^あま^まし^し
それ^{それ}人^{ひと}は^は生^{なま}む^はて^て死^しむ^はる^は事^{こと}あり^{あり}て^て天^{てん}命^{めい}に^にあ^あま^まし^し
何^{なに}れ^れ短^{たん}命^{めい}あり^{あり}と^とい^いふ^は何^{なに}れ^れと^とい^いふ^は物^{もの}あり^{あり}て^て天^{てん}
の^の命^{めい}小^{せう}ハ^ハあ^あま^まし^しる^は事^{こと}ハ^ハ天^{てん}命^{めい}と^とい^いふ^は
孔子^{こうし}大^{だい}聖^{せい}あり^{あり}て^て位^ゐと^と得^える^は始^{はじめ}皇^{かう}と^とい^いふ^は
あり^{あり}て^て天^{てん}下^げ城^{しろ}は^はる^はる^は事^{こと}も^も天^{てん}大^{だい}聖^{せい}に^に若^{ごと}し^しめ^め
て^て皇^{かう}と^とい^いふ^は事^{こと}ハ^ハあ^あま^まし^しる^は事^{こと}ハ^ハ孔子^{こうし}の^の位^ゐと

得給たぬも始皇の天下成得しも余く内
 運あてて天の命どあふあふいふと
 されば周ハ五代仁徳を積と武王よ至
 て天下成得秦ハ数代強成累代始皇に
 至りて天下成得徳と強とて本ハ勢と
 ども時をゆるる事ハ一唯人ハ天壽を福
 を倫せし天より命ぞとて徳乃を以て
 天命といふと志るべし凡物ハ理小始りて
 理小終る人ハ始りて乃終るなり

乃の亦あも天命といふべし

理と道との向答

一或人問曰儒佛神老莊何道も説く區と
 中せとも氣道ハ同一谷川乃あふて自然
 の理此亦よ及ハ以海に不詮理よ争うる
 事よはゆいふと遠く事ハあるまじく
 尖翁の思百取友ハ 答曰魚味乃拙者
 毎交加積の同よ迷惑いといふ中も
 よ存いと中せば座形を足事よ一は偽

妻姪犯さしめ此して人の乃ゆり此乃よ崩を
 八天罰一人眾以畜其の罰なきに理に任せ
 て姦れあるを母てい相系物小ハ素は兄才
 朋友の乃れ姦れは親子は絶あるといて
 子を絶する理ハ具つて親を絶する乃ハ家
 人ハ絶する事親より始めて素を尋ひ居子
 及母夫婦兄弟朋友小至ふもの理は任せ
 て切て君は父子兄弟悉く絶をどうめ合
 安き疎ハ由り乃よ任せ切て家絶と素

て人の非故をいめ此に係りて争ひもな
 く疑ひもれく晴去るべし此安き方を取ん
 のびつり一きま交りたこのまんう向後理と山
 て乃を分るも終へ
 又向御る理は控中へや 谷田理ハ天地
 の自然なりいよく捨中さん凡中物は判
 正の事理はあざればあるに喩ハ送を造る
 規矩を以て一毫も差ハ事あまき如
 故ハ事物は判正するハ理を用也へ身

と倫めあひあひを治る事めらるは以て
 手へー又同程と以まると成以まるとそ
 遠し取交ひ 答曰其天下此政理成以せば
 一善とも邪一悪とも邪一善とも善し
 小悪をも必罪まへ一善成あはれ小善と
 貴を成い可あま一悪ともあはれ小悪とも罪
 するは不可ありへうよこあまは人毎小悪あ
 き事ハい何じ一善を善く罪せばいよく徳人
 立へん是刀を以抽成裁切如く嚴冷めて

是を善し水ハ清き成さぶとい可清きよる
 寸ハ魚住び人ハ並あるを善しといはれも並
 る時ハ友れ一善成善んぞ罪成さめ嚴
 一るも故あはれ人よ孔子も父ハ子のこめ小
 徳一子ハ父のこめ小徳も並事こそ中よる
 空室つらそれ乃のたら仁に仁乃用ハ善しあ
 一の宥恕あま政ふあはれされハ貴ハ社よ
 中王罪ら社より軽るへ一善成子の公小
 して人れ善となは善く引く人乃一善と捨

野徳論評卷一

十一

一 限一 小善とハ貴一して泳く善も進ま一先
小悪とバゆ一してそ改む事故付故よ人懐
民和して國家治平生の人も理を以て
厳く責ふ時人免んとて偽り飾りて
悪口通を乃故以て溫和よ教る時ハ人甚
信して過故改めん事をあつたを以て
理と以するもの遠ひ能く考給ふべ一
一 又向或人のいへる理も一居はあ一と一
此事也とい哉 答曰志うは理ハ則屈なり

一 従ハ人よ射一して其理よあ一此理といは
一言也ても理屈するべ一免角理といへ人
を屈する也とい方情んぞ理といふぬ一宣
るべく存存のきと一乃の上一此人よ中る事ハ
皆理屈よ成中一然ハ乃も公友師弟のあい
とあつてハ一言も中傷じま事と存
答乃と同人
一 或問曰夫翁耆此何よ人のお小乃おくるの
およ人か一人うて人乃乃を切し内小者て

遠く事なくは何ぞり愛い何ぞり忍び何ぞの
 美く何ぞりおとと此一言世の惑を解よ
 あつて家安して疑ふ事れしは乃小進
 む始いし幼て中哉 答よ此れ存いそ是乃
 の幸ハ仁に仁乃困ハ老く老ハ親より始む
 一ハ一ハある孝行より始む小一孝ハ則
 乃乃ハ則孝く其所以ハ君よ忠故を一夫
 婦唯和ハ兄弟中よく朋友信あるハ乃此
 乃あはハ父母悦ぶ父母悦ぶ一むるハ孝の才

一小てハ此四倫唯ある者いそ孝の才
 孝ある者いそ此四倫唯ある者いそ
 成時ち天下の乃あはびとハ事れし去程よ
 乃成勤めん
 倫存のハ別乃成あつて
 一敢て孝れはは同 答曰孝ハ先小き事
 一善ハ小き事より切あはハ小孝小善ハ
 一思ふ一思ふ一生尽るを孝も善も
 一止ぬハ小孝成積んで親の心小遠小事

かまは大孝ゆゑの小事は後にして乃の心は遠
 事なりは大名にして或書は親に奉ひと後
 一起居は保し給仕するは定まる子に職
 分めて聊孝と云ふに足らば身を立るを切
 ひ家は興し父母乃名は孫にいと孝と謂じ
 と足らり此語は孝は励まんあるべし然れ
 大よ見誤る者いへし中なれば親は俸養
 給仕し子に職分と云ひは孝よあはして何
 そ見あふ今の世此職分を勤る者又希あはじ

ありあは孝子と云ふと疑ふべし此職分を
 勤る者いふその孝心あふ其上家は
 興し運不運あるべし故に予は小孝を勤て
 大孝よ至りてあはれは是るきよおほ
 あり低き小求むべし小より積る大よ至
 べし先小孝は積て又倫の和は見給へ五
 倫和は是は則身と立家し興ふ小ては是
 小より大小あるも予も小孝を勤めて及ん
 びして親にあはれ大孝は望む暇なし

ま今小孝此是いざる事はいへば物は至るは付
系右に効る事切しははまえて小孝は息は系は

孝ハ須臾も不可離事

一又向他國は住すての孝は行はいん 答は曰はるは

須臾を離るへうといい一里離るへうと家

の事は孝は行はりてるるべうとは父母は此と

忘しざるはめては此の身ハ父母より交り疎り

めては傷るべうとしては法は喧嘩好は父は

との殆ど事ハ大は大は會等は不善は生ととい

言ははは怯み殃を遊善友は交り悪友ををささ
せるまに登りずは汝に泳ぐ危きぬは
棄てべうとは論しき地めては馬より下へとは
身ハ大は事ハ小は事ハ父母より交り悪友とは善友
とは汝にいい又は成すけの淨物ハまりとせり帝
の状ハ通は意はるべ父母を心を取りては
の孝ハの才ハ一はめてはいいあらじは隔て居ても
孝ハ小は叶ひぬはあらじは一は雨よ居ても
不孝はい

一 世間よに尺小ちひさ孝も希まれなり又また悞あやまるべし何なにれ
 不孝ふこうも又また希まれなり孝こうも不孝ふこうも又また一日いちにちの
 事ことの多おほくはしりて案あはずるに人ひと一ひとハ
 子こらも親おやが孝こう切きめて子これ公こうに何なになるゆゆは
 信まこと凡たゞくはし海うみ家けあり又また親おやがゆゆめよよくお
 少せうを耻ちぢぢ思しし通とほ家けあり是こゝホち莫なち
 の恐おそ乃すなは上うり莫な太た此こゝ慈あはれれ蒙まう里り一ひと半はんれ
 報はう恩おんもせいで西あは引ひ道みちより不孝ふこう甚しし
 人ひと志こゝろしむととふ天あまの照あき説えるべし又また親おや

母ははて子こハ親おやありぬ老おいあり然しかた孝こうの正ただは
 志こゝろぬ也なりへ強こゝろ果は見みた云いく親おやりゆ容ゆるざる時とき
 ハ公こう底てい懐なつり不足ふそくは親おや又また引ひくハ親おやち係か
 其その子こを悞あやまんで一生いっせい不和ふわめて海うみるあり此この者もの
 大おほ礼らい朋友ゆうゆうとハ中ちゆう上じやう紀きものハ朋友ゆうゆうとハ紀きち
 生なま質しつ此こゝ美み外ほかハゆハ親おやと不和ふわありハ乃すなち三さん
 ぬ也なりへ是こゝホち物もの識しありておへまハ生なま質しつ良よし
 ある有あ忽たち改かへめく孝こう子こと成なへし先まへ年ねん田い舎さ
 子こおおいいくががの老おい見み付つくおへ渝あし付つせ

ハ一月の内小孝子と成り又親も子もあ
 きは論ずるに及べ人小ていふまき多分不
 孝の才ハ育れあきんある恨べし悔じ
 こも不孝奴も又子成りく育く不孝せれ
 己り不孝せーと育乃あー此とは省け子成
 懐る類向多ー是亦の人も仁義決智の由
 とは身も具足ー本とたあをゆー事もふ
 けりばるこり小事もきり不孝り平生の切
 能よふるあーたてぬ親あり又山家を

よ親也信疑若何大不孝者一尺と八寸
 唯ハ平生の交むく親も子も公小とめいん底
 甚むいまきとる尺は信是亦あもあ
 ハ疵の孝子と成べし乃此をさる所是也
 一親の非とバ凍むべし 答曰此事極り
 難義ハ親に凍むて亦小臨るハ不孝なり
 凍てん小逆ハ不孝なり極極んがさあ人

此事は、感ある予つづくは凍といふ
より平生親の公よ入る宜く候べし人上御め
ふ若れ癒して家へ氣よ入る若のりま
をバ悉き事めてとせ入氣に入らぬ者れり
事とはよれ事ともせ入に親もまことの如
氣よ入せと元より子に悉き候あつし何を
りても申し候べし候るを平生ハ親よ若と
むく凍とは凍くり候はんに逆よの
いよく親と抱ふ候して二つをがうふ孝と成

ふされハ若の公め入じ事候親ハ親の氣
入じ事候親せざるハ若れ候の家候候
才一の親乃氣に入べき事ハさよとまで替め
末れ凍候論せり也ハ感候きあり唯
及て替め候たうふ事ハ候

君父の恩

一 若父れ恩何せり重くハ 答曰恩に軽重
れハ先身神髪膚ハ親の賜ハ親生て若
養ふ不才候み若若恩小て生長ハ親もま

君の厚くしむるが乳母といふも君の
 厚くしむるを以て恩相均しといふも
 孝ある者ハ必忠ある者ハ必孝ある者
 何れもたあつて孝れまあつて忠れ
 侮人せず誠の心あるべし
 とに雖易何れ先忠ハ君の嚴威に
 向てし
 母也へそん固く勅がこ比ふ似て
 孝ハ親の毛よ向てしよもそん
 易に似てしよもそん故に親嚴
 不

孝希し此ハ以合点して父嚴
 母慈として生と育べし
 子ハ世れまびりたを去るハ
 子ハ母の嚴に嫌ハ嚴慈
 欠べしびかくするハ父の慈
 保い

孝乃と政との辨

又問孝ハ乃のなと而ハ孝子ハ
 國治
 じへや 答曰さふはあ
 孝ら天下
 乃れども一身比切
 才智も量も

徳も位と與る事れ一政ハ才智と帝と位
と徳よあざれば難治其治家は法あり礼
義あり威儀あり文あり武あり實を急し
貴罰有り回きに用事あり是は宜ま
事ありそ乃ち仁を尊び義を重んじ礼を
正し孝ハ君も民も身も與り政ち上ふりて
下ハあはれし一夫孝ありハ一夫の又倫存し
國を孝の道は出家の又倫存し然れハ孝ハ
天下此を乃れる事志れべし

大ハ野州崔玄小余氏の津也此夜話あり
強く乃ち道び理を扶人乃ち忠介に及ぶ
く孝ハ乃ち此なり事誠述傳らるる

野總著話卷一終

